

1世紀前の私と同年令の子の生活

～岡山～

49期生

I テーマ設定の理由

「戦後50年」という言葉をよく見かけます。しかし、その言葉を聞いてピンとこないのが現実でした。そこで私は、いっそのこと1世紀前の私と同年令の子供達は今と変わらない1年365日、1日24時間をどのように過ごしていたのか知りたくなりました。その対象を明治12年生まれで私の曾祖母の兄に当たる、真殿知造さんとし、その人が生まれ育った岡山を背景にしました。また、当時の学校生活も知りたいと思いました。

II 研究方法

- (1) 文献調査 今の私の生活と、当時を比べる対比表を作り、現地聞き取り調査で不十分な部分を調べる。
赤穂市の真殿村と、私の名字との関連についての有無を調べる。
1895年前後の日本・岡山・世界のできごとを調べる。
- (2) 現地調査 岡山市立内山下小学校（歴史資料室）を訪ねる。
NHKでも放映された築70年の中村和子さん宅を訪れ、先祖から伝わる数々のものを見せてもらう。
対比表を持って大原利貞先生、分島久志先生、西村健一先生と面会し、聞き取り調査をする。
真殿の地を訪ね、バス停前の川原さんより聞き取り調査。
国立民族学博物館を仲江敏彰先生と訪れ、みんぱくゼミナールにも参加。

III 研究内容

1. 対比表の作成

- (1) どういう項目を知りたいのか、あらかじめ書き出し（表の左半分）それぞれの内容を聞き取ったり（㊦と表示）調べたり（㊧と表示）見たり（㊨と表示）しながら対比表を完成していきました。その苦心の作の一部をここで紹介します。米印で書き添えたものは、私にとって耳慣れない言葉で後に内容を調べたものです。

▼表1

1日の生活

生活	今の私達	知りたい事	見聞調 ①②③	分かった事
起床	目覚し時計	何が起こしたのか	キ	にわとり（おんどり）、太陽
洗面	タオル、歯ブラシ	使用材質は何か	キ	日本てぬぐい 塩を指につけてみたく
トイレ	水・湯	当時の上水、下水について	キ	M30コレラの発生で上水道できる。
	便器、紙、消臭剤	紙の材質、行方、臭いをとる方法	キ	くみとり式、ちり紙、新聞紙、しょうのう 百姓が野菜と交換（肥料にする）

整髪(化粧)	くし、髪型、ドライヤー	当時の型 当時の女の人はどんな化粧をしていたか	ミ	男…丸坊主 女…まげを結う(ひも) つけぐし、おしろい、口紅、まゆ(コルク焼く)
眼鏡	コンタクトレンズ	目の測定方法、型	ミ	徴兵があるので視力はとても大切、書物の字も大きく読みやすい、近視は少ない。
ニュース朝食	テレビ、ラジオ、新聞 パン、牛乳、コーヒー ガス、電気 (オープン、レンジ)	配達があったのか 牛乳配達があったのか、当時の献立	キ	新聞-M.24 中国民報 1枚-1銭 1月-18銭 銅張りのかまぼこ形の車体にびんを入れて売り歩いた。
キッチン	湯わかし、食器、乾燥洗剤	洗い方、食器の種類、材質	キ	ヘチマのたわしで洗う、みがきづな、石けん 食器…ガラスはほとんどなく、白や白に模様の入った瀬戸物がほとんど。 鉄びんやアルミのやかん、アルミなべ 1人1人の*箱ぜんや小さな「おぜん」、丸い大きめの座卓、すりばちは備前焼きが用いられる。 *箱ぜん…お茶碗、はし、湯のみ、皿など、自分に必要な食器が引き出しの中に入っている。 当時はご飯が主体でおかずが少なかったことを物語っている。
	テーブル、いす	家具	キ	
	冷蔵庫	夏の保存の工夫、当時の買い置きもの	キ	
(乾燥食品)	わかめ、しいたけ、のり、かんぴょう、こうや豆ふ、昆布、めん類、かんづめ、お茶	当時の貯蔵食品とその利用法	キ	暗い風通しのいい所(縁の下とか)に竹で作ったかごの中に物を入れて置いておく。
スパイス	香辛料	種類にどんなものがあり、料理への使いみち	キ	塩干ものかんぴょう…ぐるぐるまわす機械で夕顔の実をはぐ
保存容器	タッパー、プラスチック、ガラス、陶器、かん	材質、型	キ	竹で作ったかご、竹細工は民芸品ではなく、実用品だった。
弁当箱	多種	材質、型	キ	型はいろいろあった。材質はアルミが主。
弁当おかず	和、洋、中、さまざま スナック菓子、チョコレート、缶ジュース、ガム(スーパー、コンビニ)	内容(煮物、揚げ物)	キ	ほとんどの場合、たくわんが入っていた。明太子。持って来れない子もいたようだ。 たい焼き、まんじゅう、しょうが糖、豆いた、回転焼、こんべいとう、ラムネ、ニッキー、せんべい、あめ。田舎では家で穫れるおいも、すいか。 五右衛門風呂(木を下からくべる)、石けん(やし油を使用)、ゆずなど実のまま入れる。
お風呂	ユニットバス(ホーロー)シャワー、入浴剤	材質、型、わかし方、水(湯)の行方、シャンプー、リンス、石けん	ミ	
洗たく	全自動、乾燥機	方法、使用具	キ	洗たく板(吉井川、旭川、高梁川)川での洗たく
夕食	多種	主な内容	キ	商家 3回-1. お茶 2. 昼めし 3. 夕はん 農家 4回-1. 茶の子 2. 朝はん 3. オチャ+ズ 4. ヨウメシ
(買い物)	スーパー、市場、宅配	店の様子	キ	うどん、寿司(よほどの場合のみ)
出前	すし、ピザ、うどん、かつ、中華	出前の有無、内容	キ	
(方法)	車、バイク、自転車	方法	キ	M.30 自転車が出まわった。自転車大会があった。
外食	レストラン、ホテル、デパート、専門店	外食産業の発達	キ	うどん屋、寿司屋があるが家族そろって食事がわりにする様な事はなかった。
露店	りんごあめ、カステラ、とうもろこし、いか焼き	内容	キ	わた菓子、カルメラ、たい焼き、金魚すくい
清掃	そうじ機、ダスキン	方法、用具	キ	はたき、ほうき、雑巾、ぬかぶくろ
寝具	羊毛布団、羽毛布団、パジャマ、ガーゼケット、クッション	寝具	キ	枕(そばがら、小豆)高枕、箱枕、かいまき、浴衣で寝る。 打ちなおしができない家ではせんべい布団といって固くうすくなってしまっている。
非常具	かい中電灯、ラジオ、かんばん、水レーヨン、ポリエステル		シ	手引き糸(麻、藤、木綿、絹)と木綿糸 糸は紺屋(こうや)へ持っていき、染めてもらう。 自然の染料として、あい、あせび、きわだ、くちなし、茶、黒大豆、きりの木などがある。

▼表2

いざという時のために

	今の私達	見聞録 (1982)	当時はどのようにしていたか
火事	119をまわす、消防車	キ	「火の用心」と言い回る。竜水車(手押しポンプ)、村の消防団、半鐘を鳴らす(ラッパ)
強盗	110をまわす、警察	キ	その頃に交番があった。自警団。
病	病院、医院、家政婦、救急車	キ	病人を戸板、大八車、人力車で運ぶ、病人のいる家は医者が見回る。
出産	産婦人科	キ	家に産婆さんや助産婦が来る。
郵便	速達、書き留め、宅配便	キ	M.3 郵便制度(前島密) 葉書 1銭5厘 M4 岡山郵便局 } 走って配達する *参度(田舎飛脚) 封書 3銭 M8 郵便預金 } *参度…今の便利屋や仲介業、宅配便を兼ねそなえたもので、皆に頼まれたものを持って町へいき、帰りに買い物をして帰って配る人の事
TEL	電話(海外へ) FAX	キ	M.33 郵便局に電話が設置(長い間待つ) 電報(かたかな) 至急報が先に入るのでますます待つ。
金	銀行、サラ金、ローン	キ	M.5 銀行ができたが現金収入がほとんどない当時、ほとんど利用されない。 *買屋がさかん。 *買屋…お金のいる時に品物を入れて、お金を借りるだけでなく、夏物衣類や所帯道具を預け、夏には冬物と交換するというように生活に密着している。
レンタル	CD、服、着物	キ	おさがりを大切に。古着屋
外出	けい帯、公衆電話	キ	歩くことが主体。牛窓から高松稲荷参りの80kmの往復は常だった(大阪~京都)。
葬式	タクシー、バス、電車 地下鉄、飛行機	キ	人力車を利用(遠距離は2人入夫) M.23 山陽線開通
保険	互助会	キ	講(となり組) 組織の助けによってとり行う。旗を先頭に村の墓地まで歩いて行き、ほとんどが土葬。
もめ事	保証制度(生命)、医療保険	キ	M.40 済生会の制度できる。それまでは、前もって準備しなかった。
ゴミ	県、市、区の無料相談 回収車	キ	村の長老がまとめる。
		キ	ゴミ箱(木)、町に手押車で取りにくる。田舎では箱付、大八車。

▼表3

季節行事

生活	今の私達	見聞録 (1982)	当時はどのようにしていたか
正月	おぞうに、とそ、おせち、門松、しめなわ、初詣、鏡もち(長期パック)、百人一首、嵐あげ、スキー、お年玉、印刷年玉つき年賀状	キ	初詣…夜が明けないうちに米や大豆を持って氏神様へ参り、その帰りに荒神様や山の神様に参ってくる。神様に年頭のあいさつをするまでは話をしない所も多く、道中で人と会っても頭を下げるだけだった。 おぞうに…地域によって違うが真殿家は「すまし汁」に「ぶり」「もち」「ほうれん草」「人参」「丸大根」 子供達はそれぞれ学校へ行った後「親正月」をする。 *若水迎え…井戸や川へ初詣の後、家の主人がくみにいき、神棚に供え、「ぞうに」をたく。
七草がゆ	八百屋のバック	キ	6日の夕方に家の周りで積んでおき、7日の朝のぞうすいに入れる。 ⑦は7件からもらうと夏病にかかりにくいという。
小正月	小豆がゆ	キ	砂糖を入れて食べるところもある。茅のはして食べるのが常。柿・梅の木にも切口に小豆がゆを当てて成長を祝う。
成人式	市、区のホール	キ	元服を祝う
節分	振りそで、はかま 豆まき、いわし、丸かぶりずし(恵方)	シ	1年の悪魔を追いはらうため、大みそかの日にも今と同じことをした。 2月の節分を「本当の年取り」と言い、自分の家にはないと年越しができないと行って必ず家に帰ってきていた。
バレンタイン(ホワイトデー)、ひな祭り	チョコレート、マシュマロ、ひな飾り、ひしもち、白酒	キ	} 当時なし。 嫁の実家や*カブウチのものが初びなを送ってお祝いする。よもぎのもちや*ホトギを供える。「ヒナアらし」と言って子供が2・3人連れ合って初びなの家に行くと、煮しめ、赤飯、お寿司、白酒などを出してもてなされ、にぎやかにヒナアらしをされると女の子が育つと喜ばれた。 *カブウチ…血縁で結ばれ姓を同じにする集団のこと。 *ホトギ…米と大豆をいって赤砂糖で固めたもの。

彼岸(春)	おはぎ、墓参り	お墓や仏壇のそうじをしたり、部落総出で道の修理をして団子、おはぎ、赤飯などを供えた。
税金	申告に行く	土地に対する税金があった。
子供の日	かしわもち、ちまき、しょうぶ湯	戸主制度だったので男の子のお祝は大切に、ちまき、かしわもちを作って、嫁の実家やカブウチがこいのぼりを送り、しょうぶ湯に入った。かぶと、武者人形、弓矢、矢づつなどを飾る。
プール開き(海)	海水浴	川泳ぎが主。
夏祭り	だんじり、花火、露店	花火、今のような連発花火ではないので、花火と花火の間に露店が栄えた。
お盆	迎え団子、送り団子、盆菓子、おがら、盆花、墓参り	今のお盆は仏様を迎えたり、送ったりする当時の一部が残っているもので7月を盆月(ぼにづき)とも言って七夕から始まり、約1ヶ月半を盆行事として、いろいろ行った。
夏旅行	お盆休み	盆前と年末に貸借の決済があるので、上半期の仕事を終えてやれやれという気持ちで休養した。嫁や使用人が「やぶいり」と言って実家へ帰れる日でもあった。
敬老の日	敬老会(各地)	毎日、親や目上の人を孝をつくすよう修身などで教わっているの、改めてそういう日を設ける必要はなかった。
5月母の日	赤いカーネーション	
6月父の日	彼岸団子	夏の間にしげた草を刈り、(墓地がほとんど山にあるので墓石がうまってしまう)墓そうじをしたり、季節の花を供え家の周りでは川そうじやみぞ洗いをする。
彼岸(秋)	彼岸団子	東京オリンピック後できたが、青空のもとで青年団を中心にした運動の行事が多かった。
体育の日	体育祭(各地)	明治天皇の誕生日を祝う。(天長節)
文化の日	文化勲章 1937~	なし。
クリスマス	ツリー、ケーキ、プレゼント	
大みそか	年越しそば、除夜の鐘	借金返し、1年のつけを払ったり、貸したお金を返してもらったりした。1年の総決算の日なので大変忙しいが、夜はホッとした気持ちで年越しそばを食べ、一家だんらんする。
誕生日	ケーキ、プレゼント、パーティ、赤飯、頭つき鯛	赤飯を炊く機会が今より多く、「くど」に「せいろ」をセットしていた。頭つき魚と言っても川でつれる魚をのき下に干しておいたものを焼いた。

(2) 教育について

教科-算術、國語(讀方、綴方、書方)、歴史、地理、理科、体操、圖書、唱歌、裁縫、修身、手工…小学校 数学、史学、地学、文学、修身学…中学校
 通知簿-甲、乙、丙、丁の4段階で、丁では落第。担任が日頃の行いを判断し(操行)成績が甲でも操行が丁で落第することがあるくらい態度が大切だった。
 操行-親へのつかへかた、兄弟の仲、さらへのしかた 朝起きのこと、ものゝいひかた、など。
 学習-中学入試においては、6年生の担任が責任を持って教えるうえに、生徒の意欲に対して家まで呼んで補習することもしばしばで、ガリバンをきって問題作成をしてくれた。義務教育の年数が少なく(図4)中学校を受けることは高等教育を受けたいという、本人の希望だけでなく現金収入があり経済的にゆとりのある子弟でなければいけなかった。学校がたくさんないので各地方からの優秀な生徒が集まり、寮生活を送る人も多かった。

行事-正月、天長節、紀元節(2月11日)の祝日は、全員登校で校長先生の教育勸語で始まった。(旧憲法の影響)
 修学旅行は伊勢参りが主で、夏や体育祭行事は、

1. 体力をつける。
2. 規則正しい習慣をつける。 ことを目的として、兵隊で耐えられるための訓練だった。

クラブ-撃剣(剣道)柔道、野球、駈歩(かけっこ)が主で文化系はほとんどなかった。…男子のみ



▲図4

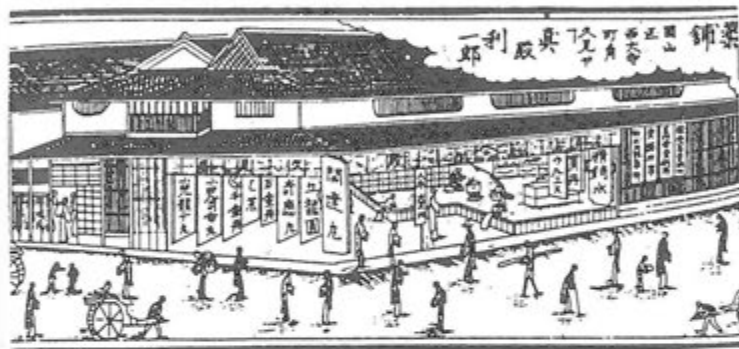
2. 「真殿」について

(1) 知造さんの原戸籍の地を訪ねて

原戸籍(図1)の番地から、明治の地図でその地を見つけ、分島先生の案内で「枝川」沿いのその場所に立ちました。当時の面影などは全くありませんが、川や古木から想像して資料で調べた遊びなどを思い出し、13歳の知造さんをしのびました。

(2) 知造さんの父(利一郎)は、明治28年当時「久見屋」という屋号の薬屋を営んでいました。その時の店の様子がよくわかる図を岡山市史「吉備の魁」で見つけました。

(図2)



▲図2



▲図1

(3) 赤穂市真殿を訪ねて

赤松則村の子孫が赤松の家老浦上氏に追われ、今の赤穂市真殿村へ千種川をつたって逃げこみました。そこでこの村を離れる時、名字が赤松では危険なので、この村の名前を取り「真殿」という名字に変えたそうです。千種川の上流には、白旗山という山があり、白旗城を赤松氏が治めていたそうです。最近開通した智頭線の駅に円心駅があります。本当の読み方は「まどの」ですが、地元の人でさえ、いいやすい「まどの」と言っていました。



▲図3

3. みんなくゼミナールに参加して

日本人はとても器用で明治維新後、伝統技術(和算、測量、さしもの技術、からくり時計など)の上に西洋文化をさし木してどんどん発達していきました。アルコールランプを利用してうちわを取りつけて作った扇風機や鹿鳴館時代を反映した靴が普及しました。岡山県や一般庶民には、ほど遠いですが靴を脱ぐための「靴脱器」がどんどん特許申請された話は明治28年頃の東京では近代化が進み始めたことを感じました。



▲写真1

IV 結 論

今回このテーマに取り組む前は、1世紀前という私には想像もつかない生活ぶりだと思っていましたが対比表にまとめてみるとその頃の様子がとても身近に感じました。それは、今の私にはほんの少しの年月の間に新しい技術の発達や科学の進歩を見たり、感じたりしているのが、1世紀前というものが「昔」というイメージだったので「不便」とか「未開発」というとらえ方でした。しかし、思想面においては憲法の違いによって、暮らしの中での考え方や教育方針などが大きく変わっていることはあっても、他の面では根本的に今と変わっていないことに気付きました。「どうしてなんだろう？」というこの疑問が私に残った大きな結論でした。

V 総 括

このテーマに取り組んでから、今まで「知っているつもり」「分かっているつもり」がどれだけ多かったかということを中心に思い知らされました。歴史についても年代を色分けにした年表のイメージがありすぎて時代が変わると何もかもガラッと変わってしまう錯覚を持っていました。テレビで見る大河ドラマも、そこに出てくる登場人物だけで大きく時代が左右されている気分でした。今回は資料からというより、岡山でじかに3人の先生から私の対比項目についてゆっくりお話を伺うことができました。五右衛門風呂を昔の形そのままを使い続けているおうちで実際に板を沈め、足をつけ、木もくべさせてもらいました。「温まる」「くつろげる」「廃材利用」という利点を考えれば、それらを大切に思い、木を割り、くべるということを面倒がらずにできる優しい人がいれば、あちこちで今日まで利用されたと思います。以上のような実際の見聞を通して、当時の暮らし方や物を追求していく以前にその時代に生きているたくさんの人々がいるとわかり、その人々がいろんな場所で出会い、暮らしやすいように工夫していく中で民具、習慣、ルールなどが生まれてくることがわかりました。今年平成7年も、明治、大正、昭和、平成生まれの人々の集合です。それぞれの時代を生きながら、自分達が生きていくための知恵を身につけてきました。今から1世紀前の明治28年にも、さまざまな時代の人が生きているので「明治28年の暮らしぶり」という線引きされるようなものは現実にはなく、それがわかったことで1人1人の命の尊さ、1人1人の人間が歴史を作っているのだと思いました。この研究を通じて出会えることのできた方々に、とても感謝しています。

・参考文献

- ・「ぼくらの岡山県」ポプラ社
- ・「岡山市史-社会編-」岡山市教育委員会
- ・「日本の民俗-岡山」第一法規
- ・「岡山県民の明治・大正・昭和」山陽新聞社
- ・「赤穂市史」兵庫県赤穂市
- ・「モース・コレクション」国立民族学博物館